

行事の
聴く
お話

ひな祭りのお話

もうすぐ、三月三日のひな祭り。ひな人形を飾っているおうちもあるかな？ 今日は、ひな祭りにどうしてひな人形を飾るようになったのか、お話しします。

ずっと昔、お屋敷で暮らしていた貴族の子どもたちは、紙で作った小さな人形でおまんごとをしていました。このおまんごとを「ひいな遊び」と言って、楽しく遊んでいたんですよ。

時がたつうちに、人形は紙ではなく、きれいな着物を着た立派なものになつて、部屋に飾られるようになりました。これが、ひな人形の始まりです。おひな様、三人官女、五人囃子、ぼんぼりなどを、「悪いことから、子どもを守ってくれますように。」という願いを込めて飾ります。ひな祭りは三月三日と決められて、みんながお祝いをするようになりました。

ひな祭りには、桃の花も飾ります。昔から、桃の花には悪いものを追い払う力があると言われてきました。とてもかわいらしい花で、ひな祭りにぴったりですね。ひな祭りのことを、「桃の節句」とも言うんですよ。

それから、ひな祭りに飾って食べるものに、菱餅があります。ピンク、白、緑の三色の菱餅。ピンクは桃の花、白は雪、緑は芽が出始めた草の色を表しているそうです。他にも、ちらし寿司やハマグリのお吸い物のごちそうがありますね。どれも、子どもの健康や幸せを願って食べるものです。

昔から続く日本の大切な行事、ひな祭り。家や園にひな人形が飾つてあつたら、よく見てみてくださいね。

(おしまい)

●聴くお話は、耳で聴いただけで、様子を思い浮かべたり、内容を理解したりするお話です。小学生になつても必要とされる、「話を聴いて理解し、考えたり行動したりする力」を育てます。行事の導入や、ちょっとした空き時間にぜひご活用ください。

